

「奇跡の芸術都市 バルセロナ展 カタルーニャ近代美術の精華」

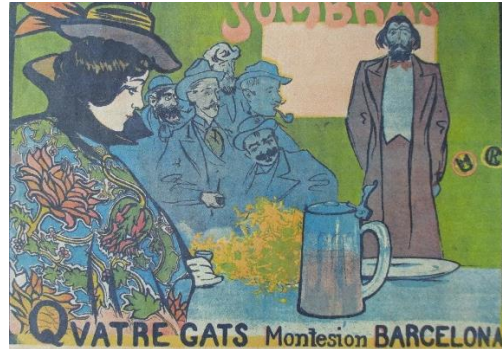
ガウディ、ピカソ、ミロ、ダリ 美の巨星たちを育んだカタルーニャの煌めき
東京ステーションギャラリー（JR 東京駅） 2020. 02. 08～04. 05

本展は、スペイン・カタルーニャ自治州の首都である「バルセロナの芸術文化」に着目し、1859年の都市計画の誕生から1936～39年のスペイン内戦に至るまでの約80年間を辿るもので、全国を巡回して今回東京での開催である。

展示作品は、「ガウディ」「ムンタネー」「カダファルク」といった建築家をはじめ、「カザス」「ルショニル」「ピカソ」「ミロ」「ダリ」らのカタルーニャが育んだ巨匠作品が終結し、絵画を中心に、彫刻・家具・宝飾品・図面など多様なジャンルの「約150点」を通して、当時のカタルーニャに花開いた芸術文化を体験することができるという催事である。

国際都市としてのバルセロナの好調な経済を背景に、優雅な生活を満喫するブルジョワたちのオファーにより生み出されたのが「ガウディ」らの華やかで独創的な建築物で、また、キュビズム、シュールレアリスムの流入から、スペイン内戦勃発に至る時期の「ダリ」「ミロ」らの芸術動向も注目される。

展覧会は、第1章「都市の拡張とバルセロナ万博」、第2章「コスモポリスの光と影」、第3章「パリの憧憬とムダルニズマ」、第4章「四匹の猫」、そして第5章「ノウサンティズマー地中海へのまなざし」で構成されている。



ルマ・リベラ 《夜会のあとで》1894年
ラモン・カザス 《影絵芝居のポスター》
1897年

アントニ・ガウディ
《カザ・バツリョーの組椅子》1904-06年
大きさが小型の椅子で新しい表現を試みた後に、それを屋外の大きな建築物に応用したとされる作品の一つである。